令和 8 年度第 2 回（第 65 回） 浜田市行財政改革推進委員会　会議録

日時　令和 8 年 10 月 27 日（火）
10 時～11 時 30 分
場所　浜田市役所本庁舎 4 階 講堂 ABC

［進行／行財政改革推進課長、会長］

◆　開会（10 時 00 分）	
行財政改革推進課長	ご案内しておりました時刻になりましたので、只今から、令和 8 年度 第 2 回浜田市行財政改革推進委員会を開会します。 委員の皆様には、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は事務局を務めます、行財政改革推進課長の松山です。 はじめに、この会議は公開で行いますので、ご承知おき願います。なお、本日はオンライン傍聴の申請はございませんでした。 それでは、開会に当たり、鈴木会長からご挨拶をお願いします。
1　あいさつ	
鈴木会長	お忙しい中、皆様お集まりいただきありがとうございます。 本日の議題にある大綱にはデジタル化のことが色々と記載されておりますが、現在、低資金問題や AI の暴走などデジタルの問題がございます。 進化の速度も速く、どんどん変わってきているため、速度に対応していくことが今後の行革にとって重要なことであると思っております。 委員の皆様には、引き続き多様な視点から議論いただき、当委員会にご助力いただければと思います。 ただ、本日、議題である大綱の内容を確認いただきますが、前回確認いただいた上でご意見いただきましたので、今回はあくまでも確認する程度に留め、大きな修正はこの時点では難しいと思っております。 お気づきの点はご意見いただければと思いますが、微修正程度であれば可能だと思いますが大きな修正は難しいことをご承知おきいただいた上で確認いただきたいと思います。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。
行財政改革推進課長	続きまして、本日の資料を確認させていただきます。 お手元に、レジュメ、出席者名簿、移動手段確認書、配席図、資料 2 をお配りしています。 また、先般、事前送付しました資料 1、資料 3 は持参いただけましたでしょうか。資料があるかご確認ください。資料がない場合においては、お持ちいたしますので、申出いただきますようお願いします。 次に、本日の欠席者をお知らせします。 名簿 2 番の光延　忠彦（ﾐﾂﾉﾌﾞ　ﾀﾀﾞﾋｺ）委員、名簿 4 番の徳富　悠司（ﾄｸﾄﾐ ﾕｳｼﾞ）委員、名簿 14 番の竹岡　篤志（ﾀｹｵｶ　ｱﾂｼ）委員が欠席されています。 次に、市職員につきましては、3 ページに「浜田市行財政改革推進本部幹事名

	簿」を掲載していますのでご確認ください。 なお、名簿の備考欄に“こめじるし”で記載のとおり、一部職員はテレビ会議システムにより参加しております。
行財政改革推進課長	それではここで、前回の会議の内容と本日の協議内容を確認いただきます。 前回は、令和8年7月8日（水）にお集まりいただき、「浜田市行財政改革実施計画令和7年度実績及び令和8年度計画（案）について」及び「新行財政改革大綱（素案）について」を議題としてご審議させていただきました。 「浜田市行財政改革実施計画令和7年度実績及び令和8年度計画（案）について」につきましては、推進委員会でいただいたご意見等を踏まえ、8月に策定し、公表しております。 また、「新行財政改革大綱（素案）について」は、いただいたご意見を参考にさせていただいた上で9月にパブリックコメントを実施したところです。 本日は、議題を1件予定おりまして「新行財政改革大綱（答申案）について」報告させていただきます。 この「新行財政改革大綱（答申案）について」は、先ほどお伝えしました9月にパブリックコメントを実施した内容を踏まえて検討したものとなります。 会議時間は、最大で1時間30分程度を予定しておりますので、よろしくお願いします。それでは、以降の議事進行は、鈴木会長にお願いいたします。
2　議題　（1）新行財政改革大綱（答申案）について	
鈴木会長	それでは、協議事項(1)に移ります。 「新行財政改革大綱（答申案）について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	（資料1及び資料2、資料3について説明）
鈴木会長	それでは、委員の皆さまからご意見、ご質問をいただきたいと思いますので発言される方は挙手をお願いします。
中芝委員	資料2の質問事項3番目の回答で、「PDCAサイクルによる進捗管理に努めていく予定にしています」とありますが、このPDCAサイクルはどういった意味合いで使われているのでしょうか。
財政課長	PDCAサイクルによる進捗管理についてですが、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字を取ったものになります。 これまでの予算編成は、上位計画である総合振興計画に予算事業が必ずしも紐づいている訳ではなく、何のために事業をするのか、どういう効果があるのかといった点が必ずしも明確になっていない部分がございました。 今回策定します新たな総合振興計画においては、政策を達成する手段として予算事業を位置付けることとしております。 また、政策の評価にあわせて、予算事業がどのように政策達成に寄与したのかを検証する中で、翌年度の予算編成に結び付けていくといった形で政策と予算事業を結び付けたPDCAサイクルによる進捗管理を行っていく予定です。 Plan（計画）・Do（実行）の部分はこれまで出来ていましたが、Check（評価）・Action（改善）のなかなか出来ていなかった部分を行っていきたいと考えております。

坂東委員	今回の議題内容はHPに掲載するといったことでよろしかったでしょうか。 また、資料2の中で「研究」といった言葉が出てきますが、こちらの言葉は行政職ではよく使う言葉になるのでしょうか。
事務局	HPに掲載する予定です。 また、「研究」といった言葉については、議会等でもよく使う言葉となります。
坂東委員	どのくらいの期間で研究していくものでしょうか。他の回答は具体的な内容ですが、研究と言っている部分は内容が見えてこないのでご質問しました。
事務局	浜田市が研究といった言葉を使う場合、基本的には対象の内容をどういった形で考えていくかも含めて研究するといった意味合いになります。 そのため、このような審議会でやるであったり、例えばこの大学の先生に聞く、この専門家に聞くであったりも含めて考える、もしくはそこまで内容を進めるべきなのか進めないのかも全て含めてどの方向に向かっていくかを考えていくことを「研究する」として使っております。
及川委員	資料1の3ページでは、浜田市の現状ということでここでは課題を整理していると認識しております。このように課題があり、具体的に進めるかといったアクションプランが6ページ以降に記載されていると認識しております。 浜田市の現状のところでは、人口減少・少子高齢化や行政サービス、公共施設の状況、地域経済の状況で課題を整理されています。 このうち、行政サービス、公共施設の状況については具体的に取り組み項目に記載があり、「ヒト・モノ・カネ」の「モノ・カネ」は具体的に落とし込まれていると思いますが、人口減少や地域経済の状況の一部ありますが、この部分についての具体的な取り組みが見えないのはなぜでしょうか。 次に、地域経済の状況で後継者不足が顕在化している、産業と働き方のアップデートといった部分についても、具体的な取り組みが見えないのはなぜでしょうか。 最後に、7ページに民間活力の活用で、同等自治体や先進的に取り組んでいる自治体からの情報収集について、既に取り組まれているとは思いますが、これまでしていたのかしていなかったのか、このようにしたが民間活力の活用が具体的に必要だといったことがあれば、もう少し記載してもらえると分かりやすいのかと感じました。
事務局	人口減少や地域経済の状況ですが、おっしゃる通り、浜田市の課題として記載させていただいており、現状を分析したものとなります。 現状を踏まえた上で市の行財政をどういった方向で進めていくかといった方向性を示すものがこの行財政改革大綱ですので、人口減少や地域経済の問題に対する解決策までは記載をしておりません。具体的な内容については、他の計画にて示していきたいと思っております。 次に、民間活力の活用ですが、浜田市においても様々な研究をしてきたところです。 一例としては、窓口サービスで民間事業者に入っていただき民間の方が窓口

	に立って、市の職員はバックヤードで作業を行うといった体制で業務を各自治体で実施されている時期がございました。 そのような時期に浜田市も先進自治体に視察をしたことがございまして、浜田市として活用が出来るのか出来ないのかを判断をさせていただいたことがございます。 その際は、受けていただける事業者がいなかったことや先進地を視察する中で様々な課題が現状としてあるといったことが分かりましたので、取り組みには至らなかったといったことがございます。 しかし、このようなことがあったから民間活力を使わないという訳ではなく、今後も様々なサービスが求められてくると思っており、そうした中で全てが市役所のみで対応できないと思っております。そのようなところで民間の力を活用しながら上手にサービスを提供することが出来るような体制を構築することが出来ればと考えております。このような内容も含めて、民間活力の活用といった項目を書かせていただいております。
鈴木会長	大綱で現状を色々と書かれていますが、先ほどご回答のありましたとおり、あくまで行革の大綱となりますので、行政サービスや公共施設といった部分が中心になるのかと思います。
坂東委員	パブリックコメントを実施されている際に図書館等に実施のチラシが配布されていたかと思いますが、もっと皆さんが意見を出しやすくするためにも、このチラシにはQRコードを入れるべきだったのではないかと思います。
事務局	おっしゃる通りだと思いますので、次回はご意見を反映して掲載させていただきたいと思います。
長谷川委員	行財政改革は様々な新しい取り組みを進められる考え方だと思いますが、市民の声を聞く手段としてパブリックコメント以外にも新しい手段を取り入れられるのがよいのではないかと思いました。
事務局	回答につきましては、パブリックコメントに加え、市長直行便制度も設けさせていただいており、様々なご意見をいただけていると認識しておりますので、現在の制度をより分かりやすく活用できるように努めていくといった内容を回答させていただいております。 しかし、この制度以外にもよりよい制度がございましたら導入するべきではあると思っておりますので、今後の研究課題であると思います。
鈴木会長	感想ですが、今回、初めてパブリックコメントを拝見して、とても重要なことを書いていただいておりますが、回答の中に研究とありますが、この回答は適切だと思っております。 ここに書かれている意見は、あまりにも具体的過ぎるため、この内容を全てやるとなると、とてもマンパワーが追い付いていかないと思いました。 一番分かりやすいのが、事前評価について書かれている部分で、私自身もこの委員会で事前評価についてお伝えしたことがあったと思います。ただ、日本では国でようやく事前評価について取り入れ始めたところで、どの自治体でも出来ていないのが現状です。そのため、PDCAサイクルといった話が先ほどあり

	ましたが、Check（評価）はDo（実行）の後になるため、評価をした後での事後評価となります。国でもPDCAサイクルといった言葉は未だに使っており、日本において事後評価が中心となっています。 もちろん事後評価は大事ですが、これがイギリスだとROAMEF（ローメフ）サイクルと言って、Appraisal（アプライサル）で事前評価が含まれています。政策評価をする上で事前評価は重要ですが、中々まだ日本では始まったばかりだと思っておりますので、これから研究していっていただけるとよいのかなと思いました。
鈴木会長	それでは、これ以上意見はなさそうですので、以上で議題については終了したいと思います。
2　その他	
鈴木会長	他になにかありますでしょうか。なければ、次に移りたいと思います。事務局からその他の連絡をお願いいたします。
事務局	それでは今後の予定をご連絡させていただきます。 次回の会議は12月頃に開催を予定しており、「浜田市第2期公共施設再配置実施計画令和8年度別冊（案）について」ご審議いただくこととしております。 また、2月頃にも開催する予定としており、「浜田市公共施設等総合管理計画の改訂版について」、「浜田市第5期行財政改革実施計画について」、「浜田市第3期公共施設再配置実施計画について」をご審議いただく予定としております。 場合によっては議題の一部を12月に前倒すことがあるかと思いますので、正式な予定は改めて通知させていただきますので、ご確認ください。 以上です。
鈴木会長	何か全体を通してご質問、ご意見はありますでしょうか。 なければ、最後に総務部長からご挨拶いただきます。
総務部長	本日はお忙しい中、お時間を取っていただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、今年の7月に諮問させていただいて以降、様々なご意見をいただき、また会議にも出席していただきながら、こうして本日最終的な答申案ということでまとめていただきました。感謝申し上げます、ありがとうございます。 現在、新しい総合振興計画の完成に向けて進めているところでございます。限られたマンパワーや財源といった中で、いかに新しい総合振興計画に沿って様々な事業を、市民の皆様の幸せのためにどういったことをやるべきか考える中で、どうしてもどう効率化するのか、どうマンパワーを配分するのか、行財政改革大綱は総合振興計画のベースとなる重要なものだと思っております。 そこに皆様の意見をしっかり反映させて、こうした大綱にまとめることが出来て大変感謝しております。 大綱の中でも触れていますが、今後、人口減少社会の中で行政は規模を縮小しながら、高水準のサービスを維持していく必要があり、難しい舵取りの中、進めていく必要があろうかと思います。

	市長の言っておられる「新しくて、優しくて、強い行政」を目指していくことになると思いますので、具体的な部分については今後計画でお示しさせていただくことになります。委員の皆様には、引き続き進捗管理といった形にはなろうかと思いますが、ご意見をいただきながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。
鈴木会長	それでは以上をもちまして、浜田市行財政改革推進委員会を終わりたいと思います。長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

（10 時 40 分閉会　所要時間 40 分）